

# 經濟論叢

第七十一卷 第二號

---

ブルジョア經濟學の俗流化と民族問題

…………… 出口 勇 藏 (1)

實業同志會の向背 …………… 市 原 亮 平 (11)

庄屋リコールの問題 …………… 編 堀 江 英 一 (31)

は し が き …………… 堀 江 英 一

徳川時代における山城國の農民闘争 …………… 大 槻 弘

備中倉敷における新祿古祿の抗争 …………… 内 藤 正 中

ドイツ鐵鋼業の管理形態 …………… 中 村 忠 一 (49)

---

[昭和二十八年二月]

京都大學經濟學會

# 庄屋リコールの問題

堀江英一編

はし が き

近世封建社會における商品經濟の發展とくに中期以降に於ける農民的商品經濟の發展は、被支配階級たる農民層や町人層の内部にも重大な階層變化をもたらしした。

それは『農地改革願末概要』にのせる「五十町歩以上の大地主の徳川期における家格」からもうかがわれるところである。商品經濟の發展のおくれた東北とくに九州・關東地方では藩士郷士・村役人層がそのまま現在の大地主に轉化しているに反し、近畿地方では村役人層の大地主轉化は少く農村から成長してきた新興商人層から轉化したものが多い。こゝから、われわれは近畿地方を典型とする先進地方において村落内部の支配階層が變化したことを推測することができるのである。

ところで、こうして交替した村落内部の支配階層——村役人層は一般にかなりの性格の相違を示している。舊支配階層は中世社會の名主層の系譜をひく村落君主であり、名子・譜代・下人を臣下としてつかう土豪地主であり、商品生産化しても彼等は専ら醸造業者や質屋であるが、新しく勃興した支配階層は發展しつつある農民的商品經濟の組織者であり、彼等は醸造業・質屋をかねるにしてもより多く綿商・糸商・織元などであつた。

本稿におさめた二つの資料はともに先進地帯における庄屋リコール問題に關するものであるが、庄屋リコールは村落・在郷町内部の構造變化に伴う新・舊經濟支配者の支配權をめぐる階級斗争である。それはこれまでの百姓一揆論にもれた農民斗争の一面をあきらかにしている。

東北三縣(青・山・福)	七	六十一	二二一〇	一四	二八	一九	二	五	一六	九三十一
關東四縣(茨・栃・埼・千)	三二〇十一	二八十五	三一十四	八	八	一	二	一	一一	六三十五
九州	二九十一	二八十五	二四十九	一一	二七	二	四	一	六一	四四十一
近畿五縣(滋・大・兵)	一十一	八十五	八十五	二	一八	八	一	一	三三	八十一
	藩名	郷土(館)	村役人	農(本百姓)	商(質屋)	醸造業	工	其ノ他不詳	計(不詳)	(除外)

備考『農地改革願末概要』八〇八頁。(+)印を附した數字は兼職を示す。